令和４年度２学期始業式　式辞

皆さん、おはようございます。校長の川崎芳徳です。

今日、42 日間の夏休み中、大きな事故等もなく元気な皆さんと再会できましたことを、心から嬉しく思っています。

始業式ということで、全員、制服での登校をお願いしています。これは、皆さんに、私服併用可能期間ではありますが、ＴＰＯ･･･「時」と「場所」と「場合」に応じた服装を、という観点から、制服に統一させていただいているということです。この点は押さえておいてください。人生を歩む中で、「ドレスコード」とうものは大変重要になってきます。将来、会社組織等に勤めるようになった際、上司が社外の催しなどに参加される場合、一番に確認し、上司に伝えなければならないことの一つは、ドレスコードです。上司に恥をかかさない、ひいては、所属する組織が恥をかかないことが求められるということです。

さて、皆さん、どのような 42 日間でしたか？　予定していたこと、イメージしていたことを実践することができましたでしょうか。

部活動などでは、多くの分野で素晴らしい活躍が見られました。

ウエイトリフティング部の３年生、坂本琴音さんは、愛媛県で行われたインターハイにおきまして、スナッチで高校新記録、クリーンアンドジャークで大会新記録を樹立、トータルでも大会新記録と、無敵の全国チャンピオン、そして、同じく３年生、西尾明莉さんは、優勝した京都の選手と、トータルで同じ記録でしたが、細かな規定により、準優勝、３月の全国高校選抜大会、７月の全国高等学校女子ウエイトリフティング競技会を制した二人が、そろって輝かしい成績を収められました。私も、試合直前に、同行してくれていた２年生の新矢さん、納富先生とともに、リラックスしている坂本さん・西尾さんの表情を見て、「これはやってくれるな」と感じていました。実に見事な戦いぶり、歴史に名を刻まれました。

男子バレーボール部は近畿大会に出場。１回戦、京都府代表の北嵯峨高校を退け、２回戦で強豪、大阪代表の興國高校に敗れはしましたが、高身長のメンバーが揃っているチームではない本校が、常に考え工夫しながら、近畿大会常連校として、本当によく頑張ってくれました。

そして、何と、ビーチバレーボールでは、坪田京悟さんと三木翼さんペアが、近畿大会３位に輝きました。丘にあり、ビーチが遠い本校、砂浜での練習環境に決して恵まれていない中、素晴らしい結果を勝ち取ってくれました。「お見事！」の一言です。

また、吹奏楽部、日頃、体育祭や交流戦などでお世話になっていますが、神戸地区大会で金賞、県大会へ駒を進め見事な演奏を披露、多くの観客を感動さ

せてくれました。関西大会への切符は、まさに、わずかあと一歩のところで逃しはしましたが、今後への、大きく確かな自信と誇りを獲得できたことと思います。

さらに、神戸女学院大学で開催された「ＳＤＧｓ探究×研究フォーラム 2022」で「グッドポスター賞」を受賞された３年生の清水美伶さん、伊丹北高校で開催された「兵庫県高等学校家庭クラブ研究発表大会」で「家族健康計画 ～食事を通して人もペットも幸せ倍増～」という題目で発表し、「創意工夫賞」を受賞された２年生の下川いずみさん、全国パソコン技能競技大会の日本語スピード競技で、見事、佳良賞（相当に優れているという意味）を獲得された、２年生の垂水あかりさん･･･などなど、他にも多くの人が活躍されておられますので、この後の表彰伝達で披露させていただきます。皆さん、本当によく頑張りました。

夏休みで、合宿をはられた部もありましたね。仲間と「同じ釜の飯を食う」という経験は、理屈抜き、深い繋がりを生みます。そんな中、つらくしんどい場面もあったことでしょう。陸上競技部の神鍋での合宿では、他の学校の生徒も含め、皆が疲れている場面で、本校の生徒が、率先して声を出したり動いたりと、それによって皆を鼓舞する場面が多々あったと報告を受けています。自分に余裕がない中、周囲への目配り気配り、なかなかできないことです。まさに、スポーツを通した人格形成、勝つこと、上達することを追い求める中で、本来の目的､｢総合的人間力｣向上が図られていること、大変嬉しく頼もしく、誇らしい限りです。

学校の中では、生徒会や放送委員会、部活動の皆さんにもお世話になり、中学３年生を対象にした「オープンハイスクール」を開催しました。

中学生 616 人、保護者 407 人、合計 1,023 人が参加されました。まさに、多くの中学生に目指されている須磨友が丘高校･･･今、そこに在学している皆さんには、さらに輝きを増し、自らを高めることにチャレンジし続けてほしいと考えています。

とりわけ、３年生･･･いよいよ進路を確定していくシーズンですね。決して、嫌なプレッシャーを感じるのではなく、“持てる力を発揮するのみ！”の精神で、“自分試し”を楽しむ気持ちを持って臨んでください。大切なことは、これまで、しっかり自分自身と向き合いながら定めてきた目標を、決して見失わず、簡単に妥協しないこと･･･総務省の調査で、平日の学業時間について、「大学生が小学生より短い」という結果も出ています･･･なぜ、このようなことが起こるのでしょうか･･･大学合格の瞬間に、学びを止めるのでしょうか。入学した大学名を“最終学歴”としたとて、この変化激しく予測困難なグローバル社会を、心豊かにたくましく生き抜いていくためには、「知・考・行」を継続していかなければ、立ち行かないのです。

「知識・技能」を活用して課題解決に向かい「思考・判断・表現」し、「主

体的に学習に取り組む」行動を起こす。そして、行動を起こしたことで得た知識・技能を持って、また考え、新たな行動を起こしていく･･･「学力」とは、“学ぶ力”“学び続ける力”であり、“最終学習歴”を更新し続けていくことこそが、強く求められているのです。
そう考えたとき、やはり大切なことは、しっかり自分と向き合い、将来のビジョンを可能な限り描きイメージし、そこに向かっての進路を探り、本気でアプローチしていくことでしょう。
あと７か月、じっくり時間をかけて取り組み、挑戦し続けようではありませんか。実力、潜在能力（ポテンシャル）という充分な切符を持ちながら、“早い者勝ち”が如く急いで途中の駅で下車するようなことがあれば、進学後に、大なり小なり後悔が始まり、「こんなはずじゃなかった」･･･そして、目標を見失い、小学生よりも学業から離れる大学生となることへも繋がっていくのではないでしょうか。
私は、学校は一つの大きな“エネルギー体”だと思っています。皆の活動、活躍のエネルギー、もちろん、熱い先生方のエネルギーもどんどんと蓄積され･･･例えば、先ほどのインターハイチャンピオン誕生や近畿大会での活躍･･･これらもエネルギー体の大きな源となり、その輝き燃えるエネルギーの恩恵は、皆さん全員に降り注いでくるのです。そして、これは、多くの卒業生や地域の方をも元気にしているのです。そういった意味で、私たちは、ばらばらに個人戦を戦っているのではなく、皆で団体戦を戦っているのです。
今、須磨友が丘高校は、大きなパワーが蓄積された巨大な“エネルギー体”になっていると感じています。途中下車ではなく、皆で互いに応援、協力、刺激しあい、各々が本気で目指し、目標とする駅まで、走り続けようではありませんか。「できる！できる！やってみせる！」の精神で、粘り強く挑戦する生き方を実践してほしいと思うのです。幸いにも、時代も、“早い者勝ち”ではなく、“粘った者勝ち”に強い追い風が吹いています。是非、この風に乗ってください！
さて、終業式で少し私事をお話しさせていただきました。長崎県五島列島に帰ってきました。墓地でお墓に手を合わせ、親戚のお宅で仏壇に手を合わせ、お世話になっているお寺の本堂で手を合わせ･･･姿はないけれども、私とつながっている人たちと語り合い、あまりのご無沙汰をお詫びしてきました。
皆さんも、お寺に行かれたり、教会に行かれたり、墓地に行かれたりされた人も少なくないのではないでしょうか。心静かに、日頃の感謝の気持ちを伝えたり、今の生活を報告されたり、お願い事をされた人もおられることでしょう。
「姿なきものは、一切何も無い、存在も無ければ影響も無い」と言い切る唯物論者もおられることでしょう。ただ、お正月の初詣、お墓や仏壇、神棚に手を合わせる、また、野球部が、守備に着いたとき、真っ先に、帽子を取って自

分のポジションに一礼、陸上部が、走り終え後に、走ってきたコースに一礼などなど･･･どうでしょうか、このようなことは、生活の中で結構あるのではないでしょうか。

私自身は、目には見えないものと、「繋がっている」「見守ってくれている」という感覚を強く持っています。すでに他界した、身内はもちろん、私の人格形成に大きく影響を与えてくれた方々に、「見られている、見てくれている」という感覚を持ち続けています。

このようなことは、一人一人の考え方、感じ方が全てで、正解や誤りは一切ありません。ただ、世の中で、現代の科学技術をもってしても、証明できないことが多々あるということは知っておかなければならないと思っています。

余談ですが、五島列島が、来月、10 月３日（月）からスタートするＮＨＫ、朝の連続テレビ小説「舞いあがれ！」の舞台となり、長崎県出身で、３歳から７歳まで五島列島で育った、元けやき坂 46 のメンバー、「長濱ねる」さんが出演ということもあり、これから観光客が増えるかも･･･といった声もあちらで聞こえてきました。

最後にもう一点、何か一冊、本を読むことができましたでしょうか。

時を越え国境を越え、読書により、そこへどっぷり入り込む･･･気分が落ち込んだときには、そこへ逃げ込み、現実逃避するようなことがあってもよいでしょう。人類だけが獲得した伝達方法、遺伝方法、“文字”の恩恵に、これからも、そのときどきに合せてあずかろうではないでしょうか。

それでは、須磨友が丘高等学校が、さらに巨大なる“エネルギー体”となり、皆さんの大切な勝負の場面で大きな力となり、各々が望む方向へ進んでいけますことを祈念しまして、令和４年度２学期始業式の式辞とします。

皆さん、コロナ対策も忘れず、力を合わせて団体戦を頑張っていきましょう！

令和４年９月１日

県立須磨友が丘高等学校長　川崎　芳徳